

# 世界スカウトジャンボリー 参加者感想文



## 班長として(ボーイスカウト金谷第1団 加藤 健)

「こんなに大変だと思わなかった」この言葉が口癖になってしまいました。自分は今回のジャンボリーで班長をすることになりました。最初は、同じ高校生や中学生の集まりだし、指示どおりうまくいこうと思っていました。ですが、現実そんなに甘くなく隊長に叱られたり、1日18時間動きっぱなしな日も少なくなく、とても大変な日々が続いていました。そして、台風で会場を撤退した後はさらに大変な日が続きました。ですが、最初はとまらぬに悩んでいた班も日がたっていくうちに自分の指示をしっかりと聞いてくれるようになり、すごくうれしい気持ちになりました。そして自分の中の今回のジャンボリーの目標である「人として大きい人間になる」を達成することができたと思います。最後の日のバスの中では「こんなに楽しいとは思わなかった」と強く思いました。



## 世界スカウトジャンボリーに参加して(ボーイスカウト島田第2団 園部 鼓太郎)

この夏に参加した世界スカウトジャンボリー(WSJ)にはあまりにも多くの興奮と感動、発見や出会いがあり、間違いなく僕の人生に大きな影響を与えた。  
語りきれない僕の経験から今回お伝えするとすれば、まずは自分の国を知るということだ。開催地である韓国のセマングムに降り立つと、そこはもう多様性の宝庫となっていた。キャンプサイトの近所には世界中からの隊。道を歩けば様々な国や地域のスカウトとすれ違い、ハイタッチをしたり、ワッペンなどの交換をして、交流が始まる。こんな非日常が当たり前という素晴らしい世界だ。その中で、やはり僕は日本の代表であることを実感した。交流する時もまずは、日本人として見られる。だから日本を語る前に、僕が日本についてもっと知らなくてはいけないと思った。  
二つ目は言語についてだ。WSJは世界中の国と地域から同世代のスカウトが集結する平和の祭典である。もちろん公用語は英語だ。どこを歩いても、どの国の子と話す時も英語が必要になる。幸い僕は簡単な英語を話せたため、自分の言いたいことが伝わった時の感動は大きく、またうまく表現できない時は自分にもどかしさを感じた。英語が話せると視野が広がり、国を問わずたくさんの友達ができ、楽しさが何倍にもなる。外国語を学ぶことは可能性を広げることだ。だから皆さんにもぜひ外国語を学ぶ素晴らしさを知ってもらいたいと思った。  
最後に、WSJについて開催期間中、聞こえの悪いニュースが飛び交っていたそうだが、僕達はそんなことつゆ知らず、一生に一度の最高な日々を毎日楽しみ尽くしていた。このような素晴らしい機会をくれた両親やスカウト関係者の方々に感謝するとともに、日頃からスカウト活動に取り組み、また4年後のポーランドではサポートスタッフとして世界スカウトジャンボリーに参加できることを願っている。



## 肌で感じた、「世界」(ボーイスカウト島田第2団 園部 桃子)

目の前に竹林が広がる小さな部屋で、私はこれを書いている。涼しい風を受け、ゆっくりと揺れている竹の葉を見ながら、夏のあの経験を思い返す。すると、それは本当にあつという間のもので、たくさんの感動と興奮、様々なことを考える機会を私に与えた、まぶしい時間だったのだと感じる。ジャンボリーを通じて、世界が広がった体験、そして感じたことをここで少しでも共有できれば幸いだ。  
羽田から飛行機で約2時間、空港からバスで揺られること約5時間の移動を経て、韓国西部の海辺に広がる会場に到着した。そこには世界中から同年代の人々が五万人も集まる、多様性の詰まった一つの村ができていた。すれ違う人々の肌の色、髪の色、匂い、色とりどりの制服、喋る言葉。見るもの聞くもの感じるもの全てが新鮮、そして魅力的で、とっても美しく、愛しく感じられた。そのことを伝えると、他国のスカウト達も同じ気持ちだと言ってくれた。私は英語で会話をして友達を作り、バッジを交換した。そして夜にはパーティーで一緒に踊った。この経験がいかに私をわくわくさせたかは言うまでもない。忘れられない経験になった。多文化共生の世界とはまさにこれだと思った。しかし開会式では世界情勢を映し出すように、ベラルーシの人々への冷たい態度が見られた。彼らは何を思ったのだろうか。そして私たちはどうすべきだったのか。このように、世界規模の問題を目の当たりにし、よく考えさせられる貴重な機会にもなった。  
ジャンボリーでの経験は私の価値観を、間違いなく大きく変えた。これを書き終えたら、いつものように、スーツケースに荷物をまとめ異国の地に飛び出す想像をするだろう。そして私はいずれそうするつもりだ。世界で起きている様々な問題を知り、解決するために。4年後にはポーランドで世界ジャンボリーが開かれる。準備はできているだろうか。次は君の番だ。

<編集・発行>

島田市青少年育成支援センター運営協議会 事務局: 島田市教育委員会社会教育課  
電話: 36-7963 FAX: 37-2880 e-mail: syakaikyoku@city.shimada.lg.jp

# 青少年育成市民だより

令和6年2月15日発行

編集・発行  
/ 島田市青少年育成支援センター運営協議会

令和5年11月18日に、島田市内における青少年健全育成に功勞いただいた方及び団体の功績を称え、表彰するため、島田市青少年育成支援センター運営協議会表彰式が開催されました。個人の部で1名、団体の部で3団体が表彰されました。



## ■被表彰者の紹介(敬称略)

被表彰者・団体	表彰された活動の内容
感謝状 田中文	中溝町地内の信号機が無い横断歩道において、大型トラックや乗用車が頻繁に通過するため、登校時の危険を感じ、令和元年から毎朝子供達が安全に渡れるように横断時の見守りや誘導を行うとともに、あいさつなどの声かけを行い、交通事故の防止や子供達の健全な育成に貢献している。 また、平成27年から環境美化活動を行っており、通学路に面した3か所の花壇の整備を毎月3回程度行って登下校時に花を楽しめるような環境を作ったり、公園の清掃を年1回行い、子供達等が公園を気持ちよく使える様に尽力している。 その他にも「中溝町健笑会」の会長として高齢者の健康維持のための活動を行うなど地域において幅広い活躍をしている。
感謝状 三小学区南町見守り隊	平成29年より参加人員7名が登校児童の集合の見守り、通学時の同行、交通指導、学校校門でのあいさつ運動などの活動を続けている。 児童登校日に毎朝活動しており、地域の子供を地域で見守り育てることを目的としている。

被表彰者・団体	表彰された活動の内容
感謝状 大津小登校見守り隊	平成25年頃より、西野田地区の通学路にて地域住民が自主的に通学の見守りを行っていた中、平成27年に大津小学校の呼びかけにより11名で組織が発足された。 交通量の多い交差点や横断歩道に立って見守りやあいさつ運動を児童登校日に毎朝行い地域と子供をつなぐ役割を果たしている。これらの活動実績がもととなり、現在では大津地区に見守りボランティアの輪がさらに広がっている。
感謝状 神座小クラブ活動講師	平成12年度から神座小学校のクラブ活動で陶芸、大正琴、手作りクラブの講師を行っている。 クラブ活動のねらいのひとつは、異年齢の子供たちが友達と関わりながら日本のよさを再認識したり、先人の知恵を感じたりすることで和 문화に親しみ、生活を楽しく豊かなものにしようとする態度を育てることである。このようなねらいを達成するために、陶芸、大正琴、手作りの活動は子供たちにとってとても魅力的な活動である。子供たちは講師の先生に教えていただいて作品を作り上げたり、演奏したりする活動を楽しみにしている。 クラブ活動の時間は毎回1時間程度なので事前の準備を丁寧に行き、子供たちが活動する時間を十分に確保し子供たちが楽しく活動できるように配慮して下さっている。

## 青少年育成支援センター運営協議会からお願い

自治会、社会福祉団体、市内の学校、PTAその他関係団体などから選出された青少年育成補導委員が、市内7中学区ごとに分かれ、校門でのあいさつ運動、街頭補導活動などを実施しています。  
このほか青少年育成支援センターでは、小学校が行っている子どもをまもる110番の家設置事業の支援、青少年育成支援センター運営協議会表彰式の開催などの活動も行っています。  
こうした活動によって地域に見守られ、育てられた青少年は、やがて地域を担う人材になってくれるでしょう。  
市民の皆様には、青少年育成補導委員の活動にご理解、ご協力をいただき、地域において青少年への温かな声掛け、あいさつを積極的にお願ひします。

青少年育成支援センター運営協議会  
会長 鈴木 芳雄

### 【島田第一中学区】

夏休み明けの初日に島田第一中学区の第一、第二、第三小学校正門にてあいさつ運動を実施いたしました。

夏休み明けの登校でしたが、子供たちの元気なあいさつに、参加した育成補導委員もパワーをいただきました。

島田第一中学区学区長 金原 威



### 【金谷中学区】

コロナが5類となり、少しずつ以前の生活に戻りつつあります。

今年は、昨年できなかったあいさつの風プロジェクトを行いました。夏休み明けで、両手にたくさんの荷物を持った子供たちが、元気よくあいさつをしてくれました。その姿に、これからの学校生活を頑張ろうという思いが伝わってきました。そして、私たちもそんな子供たちから元気や勇気もらいました。

これからも、元気に学校生活を送れるように、見守ってまいります。

金谷中学区副学区長 松原 和哉



### 【旧北中学区】

令和6年度に長い歴史を持つ旧北中学区4小学校(伊太小、相賀小、神座小、伊久美小)は島田第一小学校と統合するため集団登校する児童の表情も何となく寂しさを感じます。旧北中学区では、毎月第2月曜日に「早朝あいさつ運動」を行っており、上級生を中心に大きな声であいさつをしてくれます。統合後、環境は変わっても元気にあいさつを続けてもらいたいと思います。



旧北中学区学区長 錦織 勇

## 地域で活躍する 青少年育成補導委員より

### 【島田第二中学区】

9月4日に今年も島田第二中学校校門付近にてあいさつ運動を行いました。今年はマスクも取れストレートに子供たちの笑顔が見れました。「おはよう」と声掛けする前に、大きな声で「おはようございます」と笑顔で声掛けしてくれる生徒も何人もいました(感激!)

地域のコミュニケーションの活性化、子供同士はもとより、地域の大人が率先して出会った人に声をかける。防犯という観点からみても「あいさつ運動」はつくづく重要と感じました。

島田第二中学区学区長 鍋島 五和次



### 【川根中学区】

コロナの5類移行に伴い、徐々にではありますが学区育成事業も以前の様な活動が出来るようになりました。

今回は夏休み明けの「あいさつ運動」の紹介です。委員が川根中学校と川根小学校に分かれ実施しました。お互いに元気なあいさつを交わし一日の始まりです。有意義な新学期になります様に…



川根中学区学区長 荒波 茂

### 【六合中学区】

昨年度はコロナ感染状況の影響で行事予定がほとんど中止となりました。今年度は10月中旬まではコロナの影響もなく前期の行事の夏季一斉補導・あいさつ運動は予定通り実施できました。なお、10月中旬以降インフルエンザ、コロナ等の影響が出てきており、後期の行事予定が実施できるかどうか危惧しております。また、近年はパトロール等の時間帯の午後7~9時の間はほとんど学生は出ておりません。今後の一斉補導の時間帯も検討したいと思います。

教育委員会事務局より送信されてきます不審者情報も驚くほど多く心配です。時間帯はほとんど午後2~4時の間です。今後のパトロールの時間・方法等も考慮して安全に活動していきたいと思います。

六合中学区学区長 中村 嘉夫



### 【初倉中学区】

「おはようございます」「おはよう」校門に元気なあいさつが飛び交います。今日は2学期の始業の日、校門では、教員や島田市社会教育課の職員、そして育成補導委員が並び、生徒たちを迎えます。朝のあいさつは、なんてすがすがしい気持ちになることでしょう。初倉地区の三校は、「あいさつ運動協力校」として、特にあいさつに力を入れています。「相手の目を見てあいさつしよう」と呼び掛けています。そんな中、登校してカバンを教室に置いた生徒達が校門に戻ってきて、自発的にあいさつの輪に加わってくれました。健全に成長している生徒達から、たくさんの幸せをいただいた朝でした。

初倉中学区学区長 増田 せつ子

